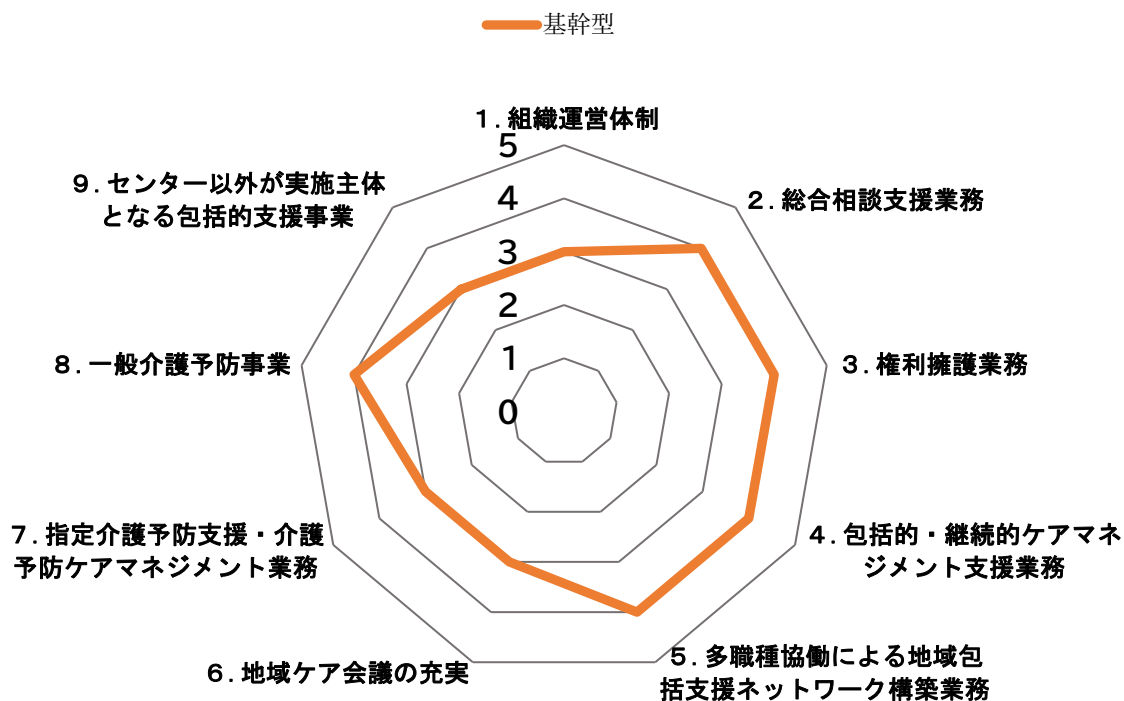


■令和7年度 糸島市地域包括支援センター事業評価の概要

基幹型地域包括支援センター



【評価のポイント】

1. 組織運営体制

・相談対応の迅速さは高く評価されているが、事業計画に対する助言が抽象的で、実践的・共感的な内容が不足している。また包括支援に偏りがあるとの指摘が継続している。

3. 権利擁護業務

・高齢者虐待や処遇困難ケースの会議において、専門的視点からの発言が不足しているため、状況整理と支援方針を方向づける主導的な助言を期待する。

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

・新任ケアマネ向け初任者研修や、認知症当事者から学ぶ新しい認知症観の研修会を実施し、居宅介護支援事業所全体のケアマネジメントの質向上に寄与した取組を実践した。

5. 多職種協働による地域包括支援ネットワーク構築業務

・各センターへの中間ヒアリングで退院時支援の共通課題を把握し、課題整理を進めている点は、地域支援体制の資質向上に向けた主体的な取組として評価でき、今後の改善が期待される。

【講評】

- ・ 困難事例等への個別支援や専門職向け研修については、各センターやケアマネジャーから概ね良い評価を得ている。一方で、各センターへの支援、対応に偏りがあるとの声もあり、支援の平準化が十分ではない面が見られる。今後は、各センターと目標を共有しながら、取組に対する提案や助言をより積極的に行い、均質な支援につなげていくことを期待する。
- ・ 引き続き、地域包括ケア推進の中核として、市と連携し各センターが抱える課題の整理や解決に向けた働きかけを進め、公平で利用しやすい支援体制づくりに寄与していくことを期待する。

【参考：第三者評価者（包括部会及び各センター）からの意見】

- ・ 経験年数が浅く不安だったが、認知症のこと、虐待のこと、記録のことなど様々な面で支援していただいている。
- ・ 各センターへの支援に対し、偏りを感じることもある。
- ・ 各センターの標準化は大切だが、職員が納得できる方法で支援してほしい。
- ・ 困難事例や虐待等の対応を行う上で、基幹型包括と市が存在し、連携報告が手間に感じることがあり役割分担が明確ではないと感じる。
- ・ 各センターは、運営主体の違いや職員の退職・異動などにより、支援の平準化が難しい状況も見られる。そのため、基幹型包括を中心に、人材育成や日常的な支援体制の強化に重点を置き、各センターの体制維持と質の向上に取り組んでいただきたい。